

maonline.jp

【日本通運】宅配便で惨敗した「物流の雄」の起死回生プランとは

日本通運(日通) 062は日本最大手の総合物流会社。1937年(昭和12年)に、戦時経済統制の一環として戦時物資を円滑に供給するため、貨物列車に積み込む荷物をトラックで集荷・配達する全国の通運業者を統合し、「日本通運株式会社法」に基づく国営企業として発足した。旧国鉄(現・JR)駅の構内や隣接地に同社の営業所が多いのは、その名残だ。1950年(昭和25年)には同法が廃止され、民間企業として再出発する。



鉄道輸送で始まった日通の歴史(同社ホームページより)

「日通に運べない物はない」

全国区の運送業者としての歴史が長いだけに、陸運・海運・空運の全てをカバーし、重量・大型品輸送や美術品輸送、動物輸送、鉄道輸送、大規模事業所移転、国際輸送といった、ありとあらゆる輸送に対応。「日通で運べない物はない」と言われるほど輸送の信頼性も高く、大手企業を中心に法人向けの輸送では、他社の追随を許さない強さを発揮する。国内では「物流の雄」である日通が近年、M&Aに力を入れているのだ。



新幹線もなんのそのー「日通に運べないものはない」(同社ホームページより)

その第一の理由が国内貨物の減少だ。「そんなバカな！」と思われるかもしれない。確かにアマゾンをはじめとするインターネット通販の普及を受けて、引受荷物が急増。配達ドライバーが足りなくなり、輸送業者の引受制限や配送費の値上げなどがニュースになっている。が、それは**B2C**(企業→消費者)の小口運送を手がける宅配業者の話。日通が得意とする**B2B**(企業→企業)運送は、製造業の海外シフトに加え、インターネット通販でメーカーと卸、小売店を結ぶ中間物流が縮小したことから取扱貨物が減り、業況は悪化しているのだ。